

古代東国の交通網

— 古墳時代の局地的道路の復原 —

雨宮 龍太郎

はじめに

かつて筆者は令制東国官道の研究史を編んだことがあるが、それ以来、官道も含めた古代東国の道路についての私見をまとめてみたいと念願していた。このたび機会を得て、本誌上で愚考を発表させていただくこととなった。

構想のプランは、

- ①古墳時代の東国の局地的道路網を復原する。(本号に掲載)
- ②復原された道路網から、東国各地の特徴を抽出して、道路に関する東国の全体像を把握する。
- ③古墳時代の道路網を律令時代の官道—東山道と東海道—路線と比較して、律令国家の形成が在地社会に及ぼした影響を調査する。

という内容を予定している。望むらくは、令制官道の衰微・変貌までを射程におさめて、中世的世界への展望を目論みたいのだが、筆者の能力からして、それはできそうにない。

1. 道路・古墳・集落

(1) 古墳造営集団の性格

小論の目的は、東国における古墳時代の局地的交通圏と、さらにそれらを結ぶ道路網を復原することにある。そのための素材として、古墳または古墳群(以下、古墳群は原則的に「古墳」という表現に包括する)の分布状況に注目した。

いったい古墳を造営し、被葬者を埋葬して、それに伴う祭祀を実施するにあたっては、特定の共同体が関与していた。その共同体の性格は、造営する古墳の規模に応じて異なってくるであろう。墳丘長100mを超える前方後円墳と群集墳中の直径20mに満たない円墳とでは、その質と量が異なるのは当然である。

しかしながら、すべての古墳造営に携わる共同体に共通する要素は、その中に生産関係が含み込まれてい

ることである。自給を目的とした水田経営では、小規模な親族的集団、またはその複合体が生産単位となっている。いっぽう自給を目的としない後期大和王権の屯倉経営や、有力国造の国造領経営では、親族的集団が経営単位になっていない可能性がある。屯倉の管理者や有力国造は、自らの奥津城を造営するにあたっては、親族的集団よりもこれらの経営単位に優先的に動員をかけたであろう。

古墳造営に関わる共同体が、こうして、親族的集団であっても、それ以外の生産単位であっても、かれらが水田耕作に従事する以上、狭長な谷津田であれ広い沖積田であれ、隣接する生産単位との必然的な諸関係が発生し、周辺の共同体との様々な交通が日常的に行われる。小論が注目したのは、古墳造営単位が生産単位として、周辺の同様な古墳造営単位と交通している事実である。

(2) 隣接古墳の親縁関係

古墳間の親縁関係は、具体的には交通—道路によって表象されている。ここに2つの隣接する同時代古墳が存在していると仮定しよう。その親縁さの程度は、古墳規模の大小、位置する地理的条件等によってさまざまな場合が考えられる。大型の前方後円墳どうしであれば、距離がかなり離れていても協調的または敵対的な関係が想定でき、両者を結ぶ通信や交通を前提してもよいだろう。同一群集墳に含まれている場合は、双方の造営集団どうしは互いをよく認識し、一部の集団構成員が双方の造営に加担していたことさえ考えられよう。さらに、同一生産水系に属する場合は、遠距離間の交通も想定できるが、生産水系を異にする場合は、短距離間でも疎遠で没交渉の可能性もある。

このように一般化すれば、隣接する2古墳に親縁関係が存在する場合、距離が近ければ近いほど親族的・地縁的な性格が強くなり、遠距離になるほど政治的・軍事的・交易的な性格が純化されていくという見通し

を立てることができる。

(3) 資料操作から問題の設定へ

本来、しかるべき研究上のテーマを設定してから、そこにいたるべき最も有効な資料を選択し、効率的に資料操作する。だが、小論の場合はこの過程が逆転している。上記の問題意識に基づいて、当初は千葉県内の限られた地域を対象として適用を試みたが、その結果の解釈について納得のゆく結論がくだせなかった。そこで対象範囲を拡大して、東国全域に及ぼしたのが小論の内容である。その結果、筆者にとっては予想もしていなかった興味深い傾向が示現したので、表題のような問題を設定するに到った。

データベースとなる資料は、文化庁から都道府県別に刊行された『全国遺跡地図』の関東地方7都県分である¹⁾。刊行時期はやや古いが、関東全域について比較的偏りなく報告している点では、今日においても競合資料は見あたらない。以下の作業は全関東を対象とするため、原図(5万分の1図の縮小版)を国土地理院発行20万分の1図上に移して行った。

まず第1に、この中から古墳・古墳群、横穴・横穴群を網羅して、黒白のドットで表記して第1図を作成した。本図を活用する際に注意を要するのは、本書に限らず、遺跡分布図に登録される古墳や横穴は、圧倒的に古墳時代後期に属しているものが多い。したがって本図は6~7世紀の大勢を示していると考えられる。さらにいえば、古墳は6世紀から7世紀前半まで、横穴は7世紀から8世紀前半までと大勢判断してよからう。この時期的限定が本論での前提となる。

さらに第2に、上記の問題意識にしたがって、交通の様態を知るために第1図を加工して、隣接する2古墳(横穴も)間距離1km未満のカップルを線でつないでみた。いうまでもなく、この線は道路そのものではなく、古墳が沿道に造営されたことを前提にしたところの、道路の近似値である。しかし、この線がいくつもの古墳を貫いて延びてゆけば、それはとりもなおさず当時の交通路-道路を近似的に表現したものにはかならないであろう。1条の線が遠距離を延々と続いた場合は、主要な幹道と認識できる。また、多数の短い線が狭い範囲に集中して現れる地域は、有力な勢力圏であり、周辺部を含めた政治的・軍事的中心地を表現している。すなわち、この線の長距離的な発達を東国における主要幹道を、広域的な密集化が有力勢力圏を復元しているのである。同時にまた、この勢力圏は局地

的な第1次的交通圏でもある。

上記の作業で大小の密集地域はほぼ復元されたが、線引きされない孤立古墳の数が多く、交通路の把握がまだ不十分に思われた。そこで、隣接距離3km未満のカップルを加上して補助線で表記したところ、主要幹道を推定するに足ると思われる結果を得られた。ただし、隣接距離3kmとなれば、「隣接する2古墳が明らかに互いを認知していた」かどうかは心許ない。あくまでも人為的な補助線と考えている。

第2図では、隣接する古墳や横穴で距離が1km未満のカップルは太線で、3km未満は細線で結合した。古墳は実線、横穴は点線で表記している。3km以上離れている場合は、線でつながずに孤立させている。太・細の2種類の線は、交通量の実態を反映していると思われる。すなわち、太い線分の周辺では人口密度が高く、近隣集落間の往来が日常的に頻繁で、利用頻度が高い。それに対して、細い線分の周辺では集落分布もまばらになるので、日常的な往来は活発ではなく、利用頻度が低くなるであろう。

2. 古墳時代の局地的交通圏

(1) 地勢について

はじめに、古墳の立地に関わる東国-関東地方の地勢から説明しよう。東国の中心部には関東平野が存在する。関東平野はV字形をなす盆地である。北は日光連山から南下した足尾山地に東西に切り裂かれ、両毛地域を形成し、南は西からは武蔵野台地、東からは常総台地・下総台地に狭められて、沖積地が海岸に及んでいるのは河口部のみである。関東平野には、上越国境の山岳地に発する利根川が南北に縦断して東京湾に注ぎ、鬼怒川水系から東流した常陸川(現利根川)が銚子河口から太平洋に達している。

主要な台地は平野の南縁に展開する。西側では秩父山地の前衛をなす比企丘陵と、その南には武蔵野台地がある。東側では常総台地とその南に下総台地がある。下総台地は東京湾岸に沿って富津まで南下し、古墳立地の場を提供している。また、小規模ながら平野北西部の笠懸野(大間々扇状地)は、古墳の密集地における空白地帯として重要である。

山地は一般的に古墳の分布は空疎である。古墳分布の観点から重要なものをあげておく。秩父盆地は標高的に山地に区分されるが、荒川上流に沿って古墳が分布する。また、常野国境の八溝山地の南縁部にも多くの古墳が分布する。

(2) 古墳時代の勢力圏と局地的交通圏

これから、前節で指摘した有力勢力圏、すなわち、局地的交通圏を確認していくが、その前に、用語の説明をしておこう。

まず、「勢力圏」と呼ぶ地域は、大規模な古墳群を構成単位としている。「勢力圏」自体に大小の規模の格差があり、単一の大規模古墳群を指している場合もあり、複数の大規模古墳群を古墳支群として包含している場合もある。だから、「勢力圏」は、必ずしも中央集権的な政体をもって、大和王権や周辺諸地域から、半独立的な体裁を整えていることを必要条件とはしていない。その内部に2つもしくはそれ以上の古墳支群、すなわち小勢力を単位とし、互いに抗争を繰り返していてもさしつかえない。いずれの場合にも、近距離間に生存する必然として、活発な交通が行われた結果に他ならないからである。「勢力圏」外の者からみれば、この抗争は「内輪もめ」と映るはずである。したがって、「勢力圏」とは、規模の大小はあるものの、古墳（横穴）の密集地帯で、地理的に周辺から明らかに区別できる範囲の謂である。小論での調査研究の性格上、その内部構造にまで立ち入って分析する余裕はない。

局地的な「交通圏」については、実質的に「勢力圏」と地理的に重なってしまう。あえてそれを「交通圏」と呼ぶ所以は、古墳や古墳群を線で結ぶことによって、「地理的に周辺から明らかに区別できる範囲」の中に、道路と近似的な映像イメージが浮かび上がってくるからである。ここでは、「勢力圏」の内容吟味はさしあたり問題としない。そのような問題の立て方ではなく、局地的交通圏における中心地の所在のあり方、いいかえれば、権力所在地と道路の形成過程の問題としてならば、あらためて取り上げるつもりである。(第1表)

(3) 局地的交通圏のブロック化

第1表に羅列した大小さまざまな局地的交通圏は、密集度と地理的条件を目安として、挿入図のごとくさらに大規模な地域群、すなわち大規模交通圏に分類できる。このまとめ、すなわちブロックが、短絡的に政治的・軍事的に有意味であったとするわけではない。こうした地域的な類別化を通して、各ブロックの道路の個性が引き立ち、その内部で交通上のネットワークを発達させ、ひいてはそれがブロックごとに比較的完結していたのではないかという問題意識に導かれている。地域ブロックの類別化は以下のとおりで、

次節で述べる各種の道路を第3図～第8図にわたり、ブロック別に図示した。古墳は赤、横穴は青で表している。

西北ブロック	第1圏～第14圏
西南ブロック	第15圏～第25圏
東南ブロック	第26圏～第32圏
東北ブロック	第33圏～第49圏
北央ブロック	第50圏～第56圏
中央ブロック	第57圏～第65圏



東国のブロック分割

3. 古墳時代の道路区分

道路網の発達には、自然状態に放置されれば、近距離から遠隔地へと徐々に拡大していくものである。日本古代にあつては、7世紀後半に中央集権的な律令国家が成立をみて以来、それに倣い、加工がなされて、京師を中心として畿内・七道を貫通する官道が整備された。官道の造成には、遠距離間の大規模工事が導入される。これにたいして、古墳時代の東国では、官道のような大規模工事はごくまれで、ほとんどは在来道に小規模な整備を施して利用していたと思われる。しかしその一方で、在来道は生活道路を中心にして官道と併存し続けて、官道が廃絶した後も地域生活に密着しつつ、今日にまで機能している。

古墳分布をたどる線分の違いは、道路の利用頻度をかなりの程度反映していると考えられる。太線が密集する部分は、道路である以前に小地域の中心地－原都市－であり、人口密度も周辺に比べて、際だって高かったであろう。密集部分の内部では、分析の及ば

ない重要な小路が錯綜しているはずである。小論は主として、そこから派生する線分の流れを取り扱う。太線の流れは、人々の盛況な往来状況を物語るものであり、細線でたどられるか細い流れは、行き交う人々もまばらな開道を表現している。

分析対象となる道路は、東国の道路の成り立ちや、その連絡している対象集団によって、以下の4種類に区分している。

(1) 第1次道路

社会的性格が濃厚な、日常生活に密着した道路である。小論が設定した各種の道路(第1次道路～第4次道路)の中では、もっとも確実性もしくは信頼度が高い。この道路をトレースするには、局地的交通圏内に発達する古墳支群を手がかりにすればよい。大規模な局地的交通圏内の道路は、往々にして複数の幹道と、それから派生する支道に区別することができる。幹道は1つの古墳支群の内部で発生し、支群の構成員を支群本体としての強固な共同体に性格づける機能を果たす。一方支道は2つの機能を有している。まず、支群本体の傍らに位置する小規模な古墳集合を、本体と結合して支群全体の連絡を密接にする。これが本義であるが、さらに、局地的交通圏内の幹道どうしを結びつける場合がある。交通上の重要性は後者の方が高いので、「第2次道路」として一般支道から区別している。概して支道は、長・短距離を含め多岐にわたるので、表示では主要なものをあげるにとどめた。(第2・3表)

(2) 第2次道路

大規模、もしくは中規模の局地的交通圏内の古墳支群を連絡する道路である。各幹道から派生した支道が連絡して成立したものであると思われる。当然のことながら、単一古墳群で構成される小規模な局地的交通圏には存在しない。この道路は古墳支群間のどこにでも造られるというわけではなく、地理的・政治的・社会的に優れた場所が意図的に選ばれていたと考えられる。この道路が十分に機能すれば、古墳支群間の交通が活発になり、圏内に統一政権が誕生する可能性がある。局地的交通圏内部の道路であり、その存在の確実性は第1次道路と等しい。(第4表)

(3) 第3次道路

同一ブロック内の隣接する局地的交通圏を連絡する道路である。第2次道路よりも遠距離の場合が多くなるので、道路が形成されるにあたっては、まず地理的条件が重視されたであろう。この道路で結ばれる圏間

に協調関係が生じるとすれば、それは連合政体になると思われる。この道路の維持管理権が特定勢力圏に掌握されていたかどうかは、道路の持つ公共性如何に関わる重要問題で、簡単に予見することはできない。道路を復元する際の手がかりとなる古墳分布の線分が、太い部分が少なくなり、線分が途絶する部分も混じってくる。線分が途絶した区間にあっても、そこに道路が存在していたと判断した場合は、逐次指摘している。第3次道路全般について、その存在の確実性は、第1次・第2次道路よりも若干低下する。(第5・6表)

(4) 第4次道路

隣接するブロックを連絡する道路である。中央集権が存在しない、またはそれから遠く隔離された「古墳時代の東国」という視点から道路網を考察する場合、この道路が大規模地域間を結ぶ(東国の動脈)となる。しかし、その形成過程は自然条件に大きく規制されて、人工的ではなく自然発生的であり、中央集権政体の意志を貫徹する東国全体の迅速な交通を意図した形跡はない。その機能は、各地の特産品の遠距離交易が第一にあげられ、第二に、おそらくその交易を媒介とする政治的・軍事的な諸関係が考えられる。

この道路は、隣接する各ブロック内の最寄りの局地的交通圏どうしが結ばれて形成される。近距離の場合は、古墳分布線分が太く結ばれるが、遠距離になると、細線が途絶えがちに続いていく状態になる。第3次道路と同様に、線分が途絶した区間にあっても、そこに道路が存在していたと判断した場合は、逐次指摘している。小論で議論するその存在の確実性は、4種の道路中もっとも低い。

また、この段階では、今まで視野からはずしてきた河海の水上交通も考慮しなければならない。(第7表)

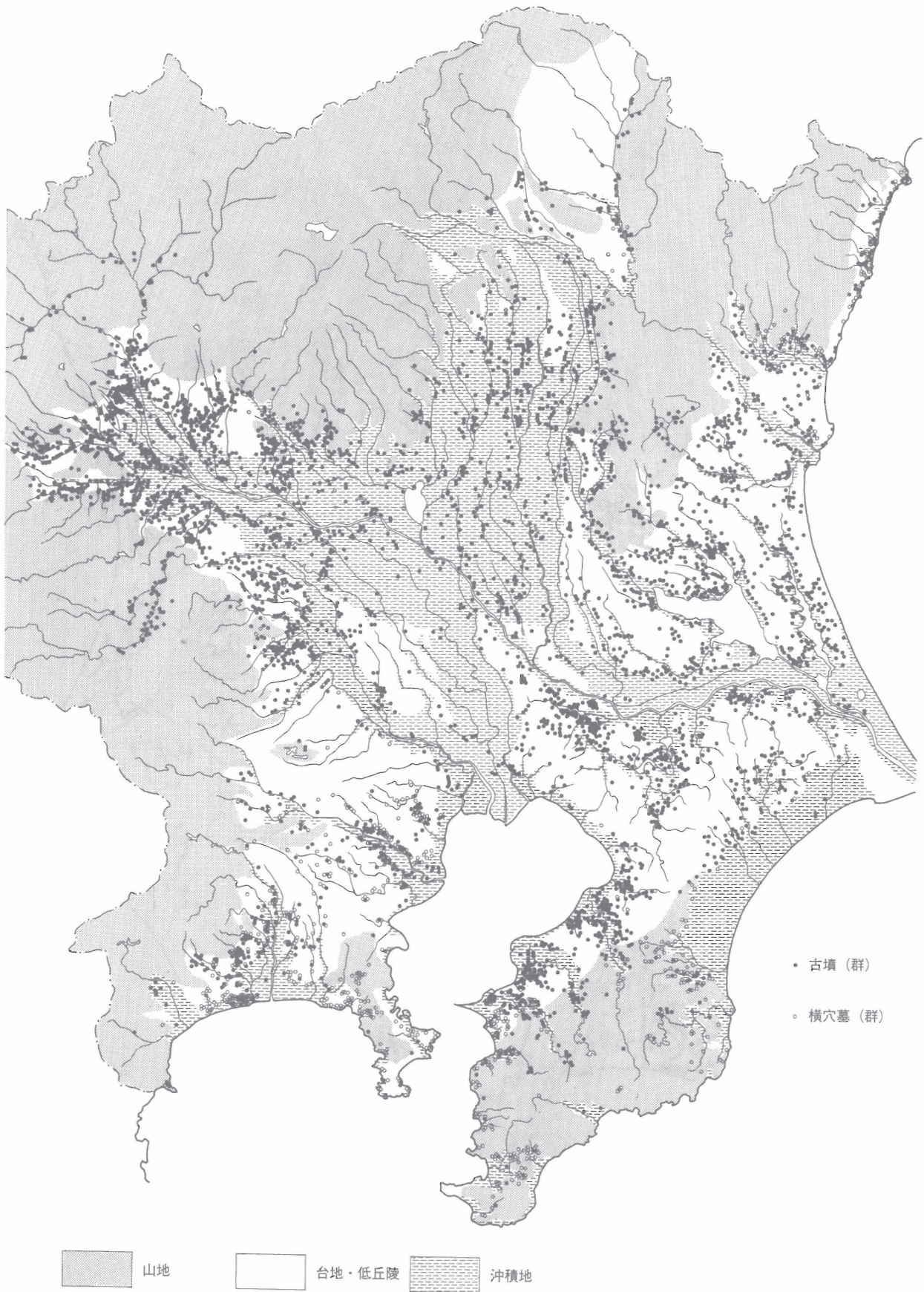
[未完]

注

1) 文化庁編『全国遺跡地図』

1974 千葉県版 1976 東京都版 1977 栃木県版

1977 埼玉県版 1977 群馬県版 1980 茨城県版 1981 神奈川県版



第1図 東国における古墳・横穴の分布状況



第2図 古墳間・横穴間の線分の軌跡



第3図 西北ブロック



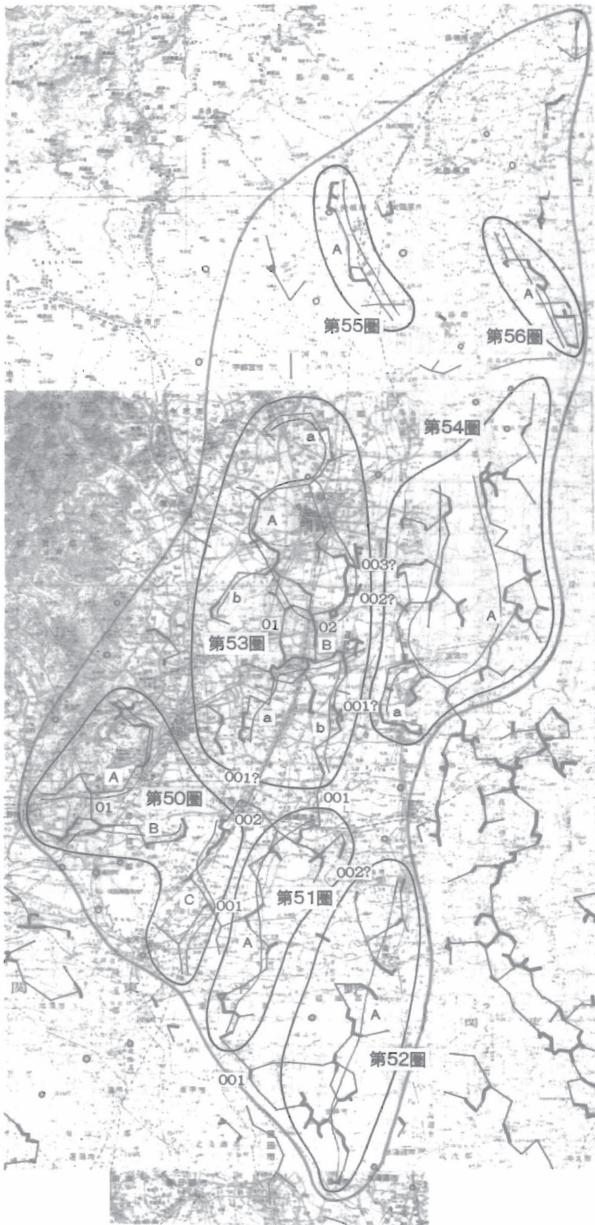
第4図 西南ブロック



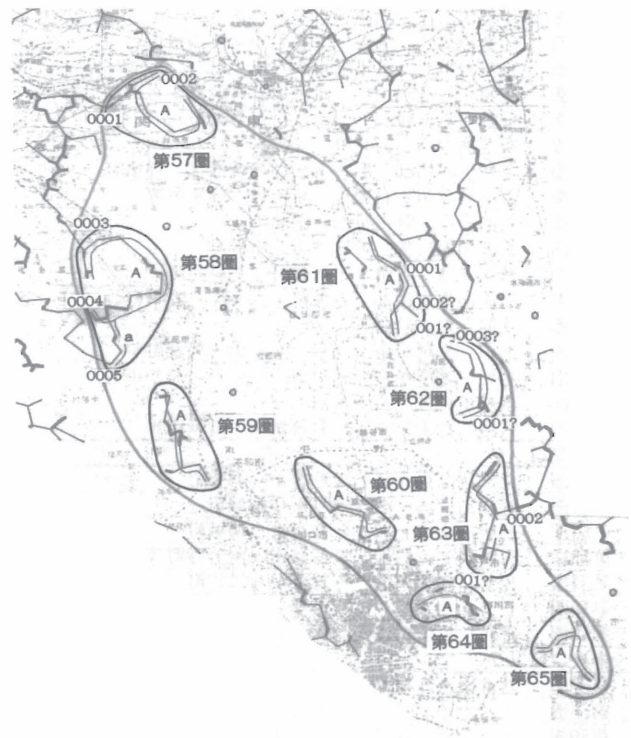
第5図 東南ブロック



第6図 東北ブロック



第7図 北央ブロック



第8図 中央ブロック

第1表 局地的交通圏一覧

西北ブロック

交通圏	地 域	規模	密度	100m超級古墳	横 穴
第1圏	榛名山東南麓。渋川市から松井田町	大	高	箕郷町椿山古墳等3	
第2圏	赤城山南麓。子持村・大間々町から境町	大	高	伊勢崎市お富士山古墳等4	
第3圏	利根川本流・烏川間。高崎市・玉村町	中	高	高崎市浅間山古墳等2	
第4圏	利根川北岸。境町・新田町・尾島町	小	低		
第5圏	渡良瀬川西岸。桐生市・太田市	中	高	太田市天神山古墳等5	
第6圏	渡良瀬川東岸。桐生市・栃木県足利市・佐野市	大	高		
第7圏	榛名山南方岩野谷丘陵。富岡市から藤岡市	大	高	藤岡市七興山古墳等5	
第8圏	鐺川東岸の本庄台地。本庄市・岡部町等	大	高		
第9圏	利根川・荒川間の櫛引台地。深谷市・熊谷市	中	高		
第10圏	妻沼低地。行田市・吹上町	中	高	行田市二子山古墳等5	
第11圏	渡瀬湿原西方館林台地。館林市・邑楽町等	中	低		
第12圏	秩父盆地。秩父市・長瀨町等	中	高		
第13圏	比企丘陵裾野。寄居町・川越市・吉見町	大	高	東松山市野本將軍塚	客体的
第14圏	入間川北岸の入間台地。狭山市	小	低		

西南ブロック

第15圏	武蔵野台地東縁。東京都北区・文京区・台東区	小	低		客体的
第16圏	目黒川流域。渋谷区・目黒区・港区	小	低	港区芝丸山古墳	混在
第17圏	多摩川下流両岸。調布市・大田区・川崎市	中	高	大田区蓬萊山古墳・亀甲山古墳	混在
第18圏	多摩川中流域。八王子市・日野市・府中市等	中	低		混在
第19圏	相模原台地。稲城市から藤沢市	大	低		混在
第20圏	丹沢山塊東南麓。相模原市から平塚市・秦野市	中	高		混在
第21圏	相模湾岸大磯丘陵。小田原市から平塚市	中	高		主体的
第22圏	箱根山地東麓。小田原市・南足柄市	零	低		混在
第23圏	三浦半島基部。鎌倉市・逗子市	小	高		独占的
第24圏	三浦半島東端部。横須賀市	小	高		主体的
第25圏	三浦半島南端部。三浦市	小	低		独占的

東南ブロック

第26圏	房総半島南端部。館山市	小	高		独占的
第27圏	湊川流域。富津市南部	小	高		混在
第28圏	小櫃川・小糸川流域。袖ヶ浦市・木更津市・君津市	大	高	君津市内裏塚古墳等5	混在
第29圏	小櫃川中流域。木更津市・君津市	小	高	市原市台大塚古墳	
第30圏	養老川流域。市原市	中	高		
第31圏	村田川流域。千葉市等	小	高		
第32圏	一宮川南岸。茂原市・長南町	小	高		主体的

東北ブロック

第33圏	手賀沼沿岸。我孫子市・白井市	中	高		
第34圏	印旛沼周辺。栄町・下総町から四街道市	大	高		
第35圏	外房地域。八日市場市から成東町	大	低	松尾町権現塚古墳	客体的
第36圏	常陸川(利根川)下流南岸。神崎町から小見川町	中	高	小見川町大塚山古墳	客体的
第37圏	稲敷台地南縁部。つくば市から東町	大	高		
第38圏	霞ヶ浦西岸。阿見町・美浦村	小	低		
第39圏	常陸川河口部=旧香取入江の突端部。神栖町	零	低		
第40圏	霞ヶ浦北辺。石岡市・新治村・麻生町等	大	高	石岡市舟塚山古墳等2	
第41圏	北浦沿岸。銚田町から潮来市	大	高	鹿嶋市夫婦塚1号墳	
第42圏	筑波山西南麓。つくば市・明野町	小	高		
第43圏	柿岡盆地。石岡市・八郷町・美野里町	中	低		
第44圏	八溝山地南端部。岩瀬町・八郷町・真壁町等	中	高		
第45圏	笠間盆地。笠間市	小	低		
第46圏	酒沼-那珂川南岸一帯。水戸市・大洗町等	大	低	水戸市愛宕塚古墳等2	
第47圏	那珂川北岸から久慈川南岸。ひたちなか市等	中	低		客体的
第48圏	久慈川流域。常陸太田市等	中	低	常陸太田市梵天山1号墳	混在
第49圏	常陸北境太平洋岸。北茨城市・高萩市等	中	高	北茨城市夫婦塚古墳	混在

北央ブロック

第50圏	渡瀬湿原東北部。佐野市から総和町	中	低		
第51圏	利根川支流々域。境町から結城市	中	低		
第52圏	利根川支流々域。岩井市から関城町	大	低		
第53圏	鬼怒川本流西域。宇都宮市・国分寺町等	大	高	国分寺町琵琶塚古墳等4	
第54圏	鬼怒川本流東域。芳賀町から二宮町	大	低		
第55圏	日光山地東麓。矢板市等	小	低		
第56圏	那珂川支流余笹川流域。那須町等	中	低	湯津上村上侍塚	客体的

中央ブロック

第57圏	渡瀬湿原西南部。羽生市・加須市	小	低		
第58圏	大宮台地北端部。鴻巣市から川島町	小	低		
第59圏	大宮台地西縁部。さいたま市	小	低		
第60圏	鳩ヶ谷支台。鳩ヶ谷市・草加市・足立区	小	低		
第61圏	下総台地西北端部。庄和町・野田市	零	低		
第62圏	下総台地西北部。野田市・柏市	零	低		
第63圏	太日川(江戸川)東岸。流山市・松戸市	小	低		
第64圏	東京低地。葛飾区・市川市	零	低		
第65圏	東京湾岸低地。船橋市・習志野市	零	低		

第2表 第1次道路(1)

西北ブロック					
交通圏	幹道	支道	経路	距離	
第1圏	1 A	榛名山東麓弧状道	コ形道路。渋川市五輪平・吉岡町上野田から榛名町神戸・上大島	約26km	
	1 B	榛名山東麓中央道	上大島から安中市上秋間	約9 km	
	1 C	石尊山南麓道	逆L字形道路。吉岡町大藪から箕郷町東明屋	約11km	
	1 D	碓氷川流域道	松井田町下増田から安中市小俣	約10km	
第2圏	2 A	赤城山南麓西道	松井田町御所平から高崎市石原・鶴辺	約28km	
	2 B	赤城山南麓東道	赤城村敷島から伊勢崎市街地	約32km	
			前橋市街地から同市駒形	約7 km	
	2 B- a		桐生市川内から伊勢崎市植木	約19km	
新里村武井から同村関・大胡町苗ヶ島			約7 km		
2 B- b		伊勢崎市茂呂から藪塚本町上中	約7 km		
第3圏	3 A	烏川北岸道	高崎市佐野から玉村町下之宮・川井	約11km	
第4圏	4 A	広瀬川・早川流域道	高崎市綿貫から同市井野	約8 km	
第5圏	5 A	渡良瀬川西岸道	境町蓮から新田町赤堀	約9 km	
第6圏	6 A	渡良瀬川東岸道	藪塚本町湯ノ入から太田市古戸	約15km	
			桐生市街地から佐野市羽田	約23km	
第7圏	7 A	鑄川流域道	6A- a 足利市街地から田沼町下彦間	約9 km	
			コ形道路。富岡市吉田・下仁田町鎌田から藤岡市金井	約34km	
			7A- a 吉井町馬庭から同町長根	約6 km	
第8圏	8 A	神流川西岸道 神流川東岸循環道	7A- b 吉井町岩井から同町谷組	約6 km	
			藤岡市戸塚から同市保美	約7 km	
			8A- a 本庄市神保原 - 岡部町岡部 - 美里町甘粕 - 神川村新里 - 神保原	約36km	
第9圏	9 A	利根川南岸道	幹道Aの内側。本庄市富田から美里町広木	約6 km	
			深谷市内ヶ島から熊谷市上之	約15km	
第10圏	10A	利根川・荒川連絡道	妻沼町男沼から熊谷市大麻生	約10km	
第11圏	11A	渡瀬湿原西岸道	行田市酒巻から鴻巣市宮前	約17km	
			11A- a 行田市酒巻から同市朝倉	約7 km	
第12圏	12A	秩父盆地縦貫道	〇形道路。大泉町古海から明和村江黒・板倉町大高島	約26km	
			足利市小曾根から同市朝倉	約7 km	
第13圏	13A	比企丘陵道	長瀨町滝ノ上から荒川村日野	約30km	
			12A- a 秩父市蒔田から小鹿野町般若	約10km	
			13A- a 東松山市高坂から同市唐子	約5 km	
			13A- b 坂戸市善能寺から鳩山町熊井	約5 km	
	13A- c 東松山市柏崎から川島町北園部	約8 km			
13B	滑川・市ノ川循環道	嵐山町古里 - 滑川町和泉 - 同町羽尾 - 嵐山町志賀 - 小川町横田	約20km		
13C	越部川流域道	C字形道路。川越市平塚から同市寺尾	約15km		
第14圏	14A	入間川流域道	飯能市青木から狭山市上奥富	約8 km	
西南ブロック					
第15圏	15A	都心部東北道	東京都板橋区小豆沢から台東区浅草橋。北部に横穴ルート	約12km	
第16圏	16A	都心部西南道	中野区東中野から港区芝。古墳・横穴共通ルート	約9 km	
			16B 神田川流域道	横穴ロード。新宿区落合から世田谷区豪徳寺	約10km
第17圏	17A	多摩川北岸道	調布市国頭から大田区糀谷。古墳・横穴共通ルート	約21km	
			17B 多摩川南岸道	川崎市生田から同市塚越。古墳・横穴共通ルート	約18km
			17B- a 横穴ロード。川崎市下田から横浜市鴨居	約9 km	
第18圏	18A	多摩川中流道	17B- b 川崎市加瀬から横浜市西寺尾	約7 km	
			八王子市四谷から府中市住吉	約18km	
			18A- a 八王子市大谷から多摩市和田。古墳・横穴混成ルート	約10km	
第19圏	19A	多摩丘陵横断道	町田市矢部から横浜市市が尾	約16km	
			19B 多摩丘陵縦断道	大和市瀬谷・下鶴間から稲城市坂浜。古墳・横穴混成ルート	約15km
			19C 相模川・境川連絡道	C字形道路。座間市小池から綾瀬市高倉	約17km
			19D 相模川東岸循環道	横穴ロード。綾瀬市深谷 - 同市宮原 - 茅ヶ崎市香川 - 藤沢市羽鳥	約27km
第20圏	20A	大山東麓道	19D- a 横穴ロード。綾瀬市深谷から横浜市二ッ橋	約6 km	
			20A- a 平塚市金目から厚木市愛甲で合流	約31km	
第21圏	21A	相模湾沿岸道	横穴ロード。小田原市国府津から平塚市街地	約14km	
第22圏	22A	箱根東麓道	南足柄市怒田から小田原市宮久保。古墳・横穴混成ルート	約13km	
			23A 鎌倉横断道	横穴ロード。藤沢市片瀬から逗子市沼間	約9 km
第23圏	23B	鎌倉縦貫道	23A- a 横穴ロード。鎌倉市JR鎌倉駅付近から同市岡本	約14km	
			横穴ロード。横浜市笹下から逗子市新宿	約5 km	
			23B- a 横穴ロード。横浜市若竹から藤沢市藤が丘	約11km	
第24圏	24A	浦賀循環道	横穴ロード。横須賀市内の大津 - 走水 - 鴨居 - 千代ヶ崎 - 池田	約8 km	
			24A- a 横穴ロード。大津から稲岡・吉倉	約4 km	
第25圏	25A	三浦半島南端道	〇形の横穴ロード。三浦市内の晴海 - 三戸 - 金田 - 松輪	約4 km	
第26圏	26A	館山外周道	横穴ロード。三浦市内の晴海 - 三戸 - 金田 - 松輪	約12km	
			26A- a 横穴ロード。南条から安房神社	約21km	
第27圏	27A	湊川流域道	富津市金谷から同市寺尾。横穴主体。	約8 km	
			28A 小糸川南岸道	〇形道路。富津市八幡から君津市皿引。南部は横穴、北部は古墳が多い	約13km
第28圏	28B	小糸川・小櫃川連絡道	28A- a 君津市鹿野山から木更津市長石	約14km	
			28B- a 〇形道路。君津市大鷲新田から袖ヶ浦市角山・三ッ作。古墳・横穴混成ルート	約7 km	
			木更津市街地から祇園・中野を経て請西で合流	約25km	
				約9 km	

第3表 第1次道路(2)

交通圏	幹道	支道	経路	距離
第29圏	29A	小櫃川中流道	木更津市下郡から君津市富田	約7km
			29A- a 君津市賀淵から袖ヶ浦市百目木	約9km
第30圏	30A	養老川西岸道	Π形道路。袖ヶ浦市上泉から市原市西国吉	約20km
	30B	養老川東岸道	市原市五所から同市池和田	約21km
第31圏	31A	千葉縦貫道	千葉市東寺山から市原市若宮	約17km
			31A- a 市原市神崎から同市高田	約6km
第32圏	32A	一宮川流域道	横穴主体のΠ形道路。一宮町小滝から茂原市渋谷。	約20km
東北ブロック				
第33圏	33A	手賀沼北岸道	柏市正蓮寺・大室から我孫子市日秀	約12km
	33B	手賀沼南岸道	沼南町大井から印西市戸神	約34km
	33C	東葛内陸道	柏市光ヶ丘から白井市復	約13km
第34圏	34A	北総縦貫道	佐倉市内田から栄町興津	約23km
			34A- a 成田市飯仲から下総町西大須加	約16km
			34A- b 酒々井町墨から同町飯野	約8km
第35圏	34B	印旛沼沿岸道	印旛村吉田から同町平賀	約13km
	35A	北総東縁道	千葉市小食土から多古町次浦	約40km
第36圏	36A	常陸川南岸道	多古町西古内から栗山川を渡り、芝山町向野までの循環道	約24km
第37圏	37A	稲敷台地南縁道	下総町高から小見川町分郷	約20km
第38圏			つくば市上郷・高須加から東町伊佐部	約50km
			37A- a 新利根町中山から江戸崎町佐倉・古渡	約9km
第39圏	38A	霞ヶ浦南岸道	阿見町大形から美浦村馬掛	約14km
第40圏	39A	鹿島南道	神栖町萩原から同町平泉	約9km
	40A	新治台地循環道	新治村田宮 - 千代田町清水 - 霞ヶ浦町坂 - 土浦市手野	約52km
	40B	霞ヶ浦東岸道	石岡市中津川から麻生町南	約27km
第41圏	40C	桜川南岸道	つくば市上野から阿見町阿見	約12km
	41A	北浦西岸道	北浦町成田から麻生町新田	約13km
第42圏	41B	北浦東岸道	鉾田町菅野谷から鹿嶋市佐田	約36km
	42A	桜川中流道	つくば市東石田から同市山口	約10km
第43圏	43A	柿岡盆地周回道	U字形道路。八郷町中戸 - 同町月岡 - 美野里町北浦	約29km
	44A	桜川上流道	Π形道路。明野町上町 - 岩瀬町堤ノ上 - 真壁町南	約32km
第44圏			44A- a 大和村青木から岩瀬町門毛	約6km
			44A- b 大和村羽田から真壁町下谷貝	約21km
第45圏	45A	笠間盆地周回道	笠間市内のC字形道路。愛宕山 - 稲田 - 上加賀田	約21km
	46A	那珂川南岸道	Π形道路。茨城町小幡 - 水戸市平江 - 同市大串 - 旭村弁天	約46km
第46圏			46A- a 平江から桂村阿波山	約14km
			46A- b 茨城町土師から友部町小泉	約11km
第47圏	47A	那珂川北岸道	水戸市国井からひたちなか市平磯。横穴ルート混在	約22km
			47A- a ひたちなか市田彦から那珂町額田北郷	約19km
第48圏	48A	久慈川南岸道	那珂町額田北郷から山方町山方宿	約22km
	48B	久慈川北岸道	日立市河原子から金砂郷村箕。横穴ルート混在	約27km
第49圏	49A	太平洋沿岸道	日立市北郊から北茨城市平潟。横穴ルート混在	約30km
北央ブロック				
第50圏	50A	足尾山地南麓道	佐野市堀米から栃木市千塚	約18km
	50B	渡瀬湿原北縁道	佐野市植上から小山市下泉	約15km
	50C	思川東岸道	小山市街地から総和町磯部	約20km
第51圏	51A	猿島台地西縦貫道	結城市街地から境町境	約27km
第52圏	52A	猿島台地東縦貫道	関城町井上から岩井市中川	約31km
	53A	鬼怒川西岸循環道	宇都宮市駒生 - 鹿沼市深津 - 上三川町磯岡 - 同町戸祭	約34km
			53A- a 戸祭から宇都宮市足次	約12km
第53圏			53A- b 宇都宮市鷺の谷から壬生町東原	約8km
	53B	鬼怒川西岸東西道	石橋町細谷から上三川町上郷	約9km
			53B- a 細谷から小山市飯塚	約8km
第54圏			53B- b 上三川町大山から小山市高橋	約14km
	54A	鬼怒川・小貝川流域道	U字形道路。芳賀町大塚 - 真岡市西沼 - 芳賀町八ッ木宿	約48km
第55圏	55A	内川流域道	真岡市高間木から二宮町阿部品	約10km
第56圏	56A	那珂川上流道	矢板市市足から氏家町蒲須原	約15km
			湯津上村蛭田から烏山町松野	約14km
中央ブロック				
第57圏	57A	加須低地周回道	羽生市堤 - 同市尾崎・加須市樋遣川 - 加須市大越	約16km
第58圏	58A	荒川東岸道	逆C字形道路。北本市高尾 - 鴻巣市街地 - 桶川市原	約25km
			58A- a 桶川市川田谷から上尾市睦吉	約4km
第59圏	59A	大宮大地西縁道	さいたま市指扇から同市田島	約10km
第60圏	60A	大宮大地東南道	川口市木曾呂から足立区花畑	約13km
第61圏	61A	太日川東岸北道	野田市新田戸から同市川間	約12km
第62圏	62A	太日川東岸中道	野田市鶴奉から柏市平方	約9km
第63圏	63A	太日川東岸南道	柏市豊四季から松戸市街地	約10km
第64圏	64A	太日川下流道	葛飾区から市川市	約4km
第65圏	65A	海老川流域道	船橋市海神から習志野市鷺沼	約11km

表4 第2次道路

西北ブロック

交通圏	連絡される幹道	連絡道	経路
第1圏	幹道A - 幹道B	0 1	吉岡町大藪から同町駒寄・大久保
		0 2	高崎市保戸田から同市沖町
	幹道A - 幹道D	0 1	高崎市若田から安中市岩井
		0 1	松井田町小日向から同町人見
第2圏	幹道A - 幹道B	0 1	伊勢崎市荒口から同市東大室
第7圏	幹道A - 幹道B	0 1	藤岡市栗須から同市戸塚
第13圏	幹道A - 幹道B	0 1	川本町黒野谷から寄居町西古里
		0 2	江南村三本から滑川町和泉
		0 3	滑川町上福田から同町山田
	幹道A - 幹道C	0 1	東松山市高坂から坂戸市石井
		0 2	坂戸市善能寺から同市花影町

西南ブロック

第17圏	幹道A - 幹道B	0 1	多摩川渡渉点。川崎市北見方と世田谷区野毛
第19圏	幹道B - 幹道D	0 1	幹道Bと幹道Dの支道aを結ぶ。横浜市瀬谷区内

東南ブロック

第28圏	幹道A - 幹道B	0 1	小糸川渡渉点。君津市外箕輪と同市内箕輪を結ぶ。
		0 2	小糸川渡渉点。君津市常代と同市三直を結ぶ。
		0 3	小糸川渡渉点。君津市糠田と同市大井を結ぶ。
第30圏	幹道A - 幹道B	0 1	養老川渡渉点。市原市安津と同市海士有木を結ぶ。

東北ブロック

第33圏	幹道A - 幹道B	0 1	沼南町箕輪から我孫子市若松
		0 1	沼南町大島田から同町塚崎
	幹道B - 幹道C	0 2	白井市中から同市折立
第34圏	幹道A - 幹道B	0 1	印旛村角崎から成田市下方
第40圏	幹道A - 幹道B	0 1	千代田町新治から同町市川
	幹道A - 幹道C	0 1	つくば市山木から同市北条
第41圏	幹道A - 幹道B	0 1	北浦町三和から大洋村梶山
第48圏	幹道A - 幹道B	0 1	瓜連町下大賀から金砂郷町松栄

北央ブロック

第50圏	幹道A - 幹道B	0 1	大平町豊岡から藤岡町太田
第53圏	幹道A - 幹道B	0 1	石橋町上台から宇都宮市富士見
		0 2	上三川町大山から宇都宮市羽牛田

第5表 第3次道路(1) (?印は線が途絶えた経路)

西北ブロック

連絡される圏	連絡道	経路
第1圏 - 第2圏	0 0 1	利根川渡渉点。吉岡町溝祭と前橋市田口を結ぶ
第1圏 - 第3圏	0 0 1	高崎市八木から同市井野
	0 0 2	烏川渡渉点。高崎市石原と同市佐野を結ぶ
第1圏 - 第7圏	0 0 1	高崎市石原から同市根古屋
第2圏 - 第3圏	0 0 1	利根川渡渉点。伊勢崎市安堀と玉村町下之宮を結ぶ
	0 0 1	伊勢崎市千木から境町武士
第2圏 - 第4圏	0 0 2	新田町大根から同町赤堀
	0 0 1 ?	桐生市相生から桐生市街地。渡良瀬川東岸。約4km
第3圏 - 第7圏	0 0 1	烏川渡渉点。高崎市倉賀野と同市木部を結ぶ
	0 0 1	新田町木崎から太田市田良
第4圏 - 第5圏	0 0 2	新田町下江田から太田市富沢
	0 0 1	渡良瀬川渡渉点。藪塚本町湯ノ入と桐生市街地を結ぶ
第5圏 - 第9圏	0 0 1 ?	利根川渡渉点。太田市古戸と妻沼町男沼を結ぶ
	0 0 1	太田市富田から足利市朝倉
第5圏 - 第11圏	0 0 2	太田市内ヶ島から足利市島田
	0 0 1	足利市朝倉から足利市街地
第6圏 - 第11圏	0 0 1	藤岡市根岸から上里町長浜
	0 0 2	藤岡市神田から神川村小浜
第8圏 - 第9圏	0 0 1	岡部町普濟寺から深谷市戸森
第8圏 - 第13圏	0 0 1	荒川渡渉点。岡部町宿と寄居町岩崎
第9圏 - 第10圏	0 0 1	熊谷市肥塚から行田市酒巻
第13圏 - 第14圏	0 0 1	鶴ヶ島町の場から狭山市南本宿

西南ブロック

第15圏 - 第16圏	0 0 1 ?	新宿区落合から文京区小石川。神田川沿岸。約3.5km
第16圏 - 第17圏	0 0 1	大田区田園調布から渋谷区恵比寿
第17圏 - 第18圏	0 0 1 ?	調布市国領から府中市住吉。多摩川北岸。約5km
第17圏 - 第19圏	0 0 1 ?	川崎市柿生から同市生田。約3.5km
	0 0 2 ?	横浜市鴨居から同市市が尾。鶴見川沿岸。約5km
第18圏 - 第19圏	0 0 1 ?	町田市小野路から多摩市和田。約3.5km
第19圏 - 第20圏	0 0 1	厚木市金田から海老名市今泉
	0 0 2	厚木市長谷から海老名市杉久保
第19圏 - 第23圏	0 0 1	藤沢市石川から藤沢市街地
第20圏 - 第21圏	0 0 1	大磯町千疊敷から平塚市金目
第23圏 - 第24圏	0 0 1 ?	逗子市沼間から横須賀市吉倉

第6表 第3次道路(2)

東南ブロック

連絡される圏	連絡道	経路
第27圏 - 第28圏	001	富津市加藤から同市佐貫
第28圏 - 第29圏	001	木更津市矢那から同市下郡
	002	木更津市中尾から同市下郡
第28圏 - 第30圏	001?	袖ヶ浦市角山から市原市不入斗。約4km
	002?	袖ヶ浦市産三ヶ作から同市上泉。約3.5km
第29圏 - 第30圏	001?	袖ヶ浦市三箇から同市上泉。約3.5km
第30圏 - 第31圏	001	市原市五所から同市若宮
	002	市原市加茂から同市大厩
	003	市原市新堀から同市神崎
第30圏 - 第32圏	001	市原市新巻から長柄町刑部

東北ブロック

第33圏 - 第34圏	001	印西市鹿黒から印旛村吉高
	002	八千代市保品から印旛村岩戸
第33圏 - 第37圏	001?	常陸川渡渉点。柏市大室 - 守谷町市之代 - 荖崎町岩崎。約11.5km
第34圏 - 第36圏	001?	下総町大菅から同町名木。約4km
第35圏 - 第36圏	001?	多古町次浦から佐原市伊地山。栗山川沿岸。約5.5km
第36圏 - 第37圏	001?	常陸川渡渉点。神崎町神崎本宿と東町幸田を結ぶ。約5km
第36圏 - 第39圏	001?	常陸川渡渉点。小見川町富田と神栖町高浜を結ぶ。約3.5km
第37圏 - 第38圏	001	龍ヶ崎市板橋から阿見町飯倉
	002?	江戸崎町佐倉から阿見町大形。約4.5km
	003?	江戸崎町佐倉から美浦村土浦。約3.5km
第38圏 - 第40圏	001?	阿見町島津から同町立の越。霞ヶ浦沿岸。約4.5km
第39圏 - 第41圏	001?	神栖町筒井から鹿嶋市佐田。外浪逆浦沿岸。約4km
第40圏 - 第41圏	001	玉造町諸井から銚田町半原
	002?	麻生町橋門から同町田町。霞ヶ浦沿岸。約3.5km
第40圏 - 第42圏	001	新治村田宮からつくば市小和田
第40圏 - 第43圏	001	千代田町大塚から石岡市栗田
第41圏 - 第46圏	001?	銚田町徳宿から同市造谷
第42圏 - 第44圏	001	つくば市上大島から真壁町南
第43圏 - 第46圏	001	美野里町納場 - 茨城町小幡 - 同町下土師
第45圏 - 第46圏	001?	笠間市上加賀田から友部町南小泉。澗沼川南岸。約3.5km
第46圏 - 第47圏	001	那珂川渡渉点。水戸市西原と同市下国井を結ぶ
	002	那珂川渡渉点。水戸市大串とひたちなか市柳沢を結ぶ
第47圏 - 第48圏	001	ひたちなか市向山から同市額田東郷
	002?	東海村石神外宿から日立市大みか

北央ブロック

第50圏 - 第51圏	001	野木町佐川野から三和町上和田
	002	小山市街地から結城市小田林
第50圏 - 第53圏	001?	小山市街地から同市飯塚。思川東岸。約5.5km
第51圏 - 第52圏	001	境町猿山から岩井市長須
	002?	関城町船玉から同町上野。約3.5km
第51圏 - 第53圏	001	結城市街地から小山市高橋
第53圏 - 第54圏	001?	鬼怒川渡渉点。南河内町三王山と真岡市若旅を結ぶ。約3.5km
	002?	鬼怒川渡渉点。宇都宮市西刑部と真岡市下籠谷を結ぶ。約4km
	003?	鬼怒川渡渉点。宇都宮市上桑島と同市河原を結ぶ。約3.5km

中央ブロック

第61圏 - 第62圏	001?	野田市谷津から同市鶴奉。約4km
第63圏 - 第64圏	001?	松戸市街地から市川市国府台。太日川東岸。約4km

第7表 第4次道路 (?印は線が途絶えた経路)

連絡されるブロック	連絡される圏	連絡道	経路
西北ブロック - 北央ブロック	第6圏 - 第50圏	0001?	佐野市羽田から同市植上。約4km
西南ブロック - 東南ブロック	第24圏 - 第27圏	0001?	東京湾渡渉点。横須賀市観音崎から富津市上総湊。約12.5km
	第24圏 - 第28圏	0002?	東京湾渡渉点。横須賀市観音崎から富津市磯根崎。約10km
東南ブロック - 東北ブロック	第31圏 - 第35圏	0001?	市原市高田から千葉市小食土。約5.5km
	第32圏 - 第35圏	0002?	茂原市長尾から千葉市小食土。約5.5km
東北ブロック - 北央ブロック	第42圏 - 第52圏	0001?	下妻市洞下から同市大宝。約4.5km
	第44圏 - 第54圏	0002	二宮町五軒家から真岡市東大島
		0003?	協和町本から二宮町阿部品。約3.5km
中央ブロック - 西北ブロック	第57圏 - 第10圏	0001	羽生市小須賀から同市尾崎
	第57圏 - 第11圏	0002	利根川渡渉点。羽生市堤と明和村江黒を結ぶ
	第58圏 - 第10圏	0003	鴻巣市滝馬室から同市宮前
		0004	荒川渡渉点。桶川市川田谷と川島村北園部
	0005	荒川渡渉点。上尾市畦吉と川島村北園部を結ぶ	
中央ブロック - 北央ブロック	第61圏 - 第52圏	0001	太日川渡渉点。野田市前村と岩井市木間ヶ瀬
		0002?	太日川渡渉点。野田市谷津と岩井市中川
	第62圏 - 第52圏	0003?	太日川渡渉点。野田市鶴奉と岩井市中川
中央ブロック - 東北ブロック	第62圏 - 第33圏	0001?	柏市大青田から同市正蓮寺。約3.5km
	第63圏 - 第33圏	0002	松戸市小金原から柏市酒井根